

令和7年度 第2回 隠岐の島町アイノマゲート推進協議会 議事録

日 時：令和8年3月30日（月）10：00～11：30

会 場：隠岐の島町役場2階 201会議室

出席者：別紙参照

1. 開会

2. 会長あいさつ

桑子会長：いよいよ海の見える交流館の建築が始まる。この一年がまちづくりで大事な一年になる。皆様からのご意見を参考にできれば。

3. 議題

1) 「海の見える交流館」とその周辺の計画について

◇質疑応答・意見

八幡氏：3月29日に地権者の会を開催されたとのことであったが、何人くらい参加されたのか。

事務局：10名。島内におられる地権者20名の内、半分の方は参加された。

八幡氏：隠岐ではよくあることだが、意見を言いづらい方や、参加していない方への配慮はどのように考えているか。

事務局：基本的には皆様に声かけをして案内をしており、欠席された方には資料の送付を行っている。今回の地権者会についてはきめ細かい対応ができていると認識している。

八幡氏：大社さんの営みや運営については重要。しっかりと考えていただきたい。

事務局：大社さんも昨日の会に参加されていた。総代会で相談をしながら意見を集約し、事務局へ伝えるとのことであった。情報共有をしながら進めていく必要があると感じている。

桑子氏：交通体系については今後どのように検討していくのか。

事務局：計画段階で協議会に説明はするが、計画段階までまとまっていないのが現状。住民・観光客のためになるものが必要であると認識しているが、駐車場やタクシーなど、大きい枠組みの中で決定する必要がある。令和8年度で港部分を含めた社会実験を通じて検討を進めていく。

2)「海に見える交流館」周辺の地域の意見について

◇質疑応答・意見

八幡氏：住民に向けて説明をしていくことは労力がすごくかかることだと思うが、誰かに説明業務を委託するような事例はあるのか。

桑子氏：大橋川はコミュニティセンターを儲け住民と対話する場を設置した。出雲市は業務委託し、やまもつのようなスペースを設置して学習できるようにしている。隠岐の島町ではやまもつに地域プロジェクトマネージャーが常駐され、状況は改善されてきている。

細田先生：建築的な観点から、塩害について検討はされていると思うが、確認をしていただきたい。螺旋階段についても、子どもたちが頭をぶつける事故等の事例がある。また、景観の観点では、景観計画に基づく看板等の検討を早めに行うこと。

事務局：ニュースレターでも景観計画について記載をしたが、西郷港周辺は景観を重点的にコントロールしていく区域として議論している。景観計画策定委員会でも交流館の色合い等について議論していく。

谷田氏：まちづくり会社が主体となり、西町でまちづくりの意見交換を行った。イメージを話し合い、具体的な内容を把握することができた場であったと話を聞いた。ただ、来られない方の意見をどうするかが重要であると感じており、ニュースレターが各戸に届くようになれば、より良くなると感じた。

事務局：談義ニュースは各戸に配布をしたが、町のルールによりなかなか難しいところもある。現在、新聞折り込みで行っているが、若い方は新聞を読まれない方が増えてきている中で、4月号は全戸配布を行い、今後も継続できればと考えている。ホームページの更新により検索が難しくなっているが、特設サイトの制作を検討している。

副町長：情報発信については以前からご意見をいただいております、興味のある方は問題ないが、興味のない方はニュースレターを見ない状態であり、難しいところがある。今回の請願書もしっかりとした説明ができていればこのような状況にもなっていないように感じる。懇切丁寧に説明をするために、町づくり会社のイベントなどに都市計画職員が参加するしかないと感じている。引き続きご支援いただければ。

桑子氏：これからは目に見える形で町も変わってくるため、関心を持たざるを得ない状況になる。今まで作成したニュースレターで子供たちのまちづくりに関わるイベントを行った旨の記載をしたが、西町の方からみて、子供たちはどのように見え

るか。

谷田氏：単発のイベントを楽しみにしている子はいる。それがどのように繁栄されているかはわからないが、3月に隠岐水産高校生が主催した旅立ちマルシェでは、学校関連の人や、参加者からも良いイベントであったと聞いている。

桑子氏：ニュースにする記事がたくさんあるため、なかなか難しい。西郷港周辺のまちづくりについて、国はどのような反応を見せているか。

事務局：国はこのまちづくりに期待をしている。また、地域での官民連携を推進とすることから、規模が小さい離島の官民連携はプロセスを含めて評価している。内閣府をはじめとして、離島振興課や地域政策課など、多数の部署から支援をいただきながら進めている。令和8年度も内閣府の事業は満額の補助をいただいた。

石田氏：交流館周辺の整備のスケジュールは把握したが、目貫通りを含めた全体の年次計画をある程度知っておきたい。交通体系を含めて大きく変わることを認識している。難しいとは思いますが、スケジュールを共有いただきたい。

事務局：現状は調査をしている段階。計画立てをする際は協議しながら進めていく。

3) 町からの報告

- ・4月からの事業について、補助が満額ついた旨の報告。
- ・今回、仮のニュースレターを配布したが、本編については後日配布する旨の報告。

4. 閉会